



輝く瞬間

鳥東高通信

第171号

平成29年12月

編集・発行

鳥取東高等学校PTA
鳥取県立鳥取東高等学校

印刷

日ノ丸印刷株式会社

健康・生活部の研修会に参加して

PTA 副会長 荒西 尚美

十月十四日、管理栄養士、椿原陽子先生を講師に、健康・生活部主催で講演会・調理実習を行いました。

講演は「大切にしたい思春期の食生活」というものでした。食べ物を選ぶ力、食べ物の味がわかる力、食べ物の命を感じる力、料理ができる力、元気な体を作る力とお話していただきました。近い将来、大学、専門学校、就職等で果立っていく子どもに向けて今、親が何をしなければいけないか考えさせられました。

調理実習では、四・五人のグループに分かれて料理をしました。料理しながらお互いの子どもの話をしたり、学生時代に戻ったりと有意義な時間を過ごすことができました。とても簡単に作れたので、みなさんがご家庭でも作られているのではないかと思います。

今回の講演会、調理実習を企画・運営した部員の皆様、協力していただいた先生方に感謝いたします。

PTA役員・保護者として残り三ヶ月、皆様とともに頑張っていきますのでご協力お願いします。

受験の向こう側で

副校長 古田 嘉博

今年七月、経済協力開発機構(OECD)の「生徒の学習到達度調査(PISA)」の予備調査が行われ、本校でも一年生八十一人が参加しました。これは三年ごとに行われる国際的な学力調査です。前回二〇一五年の調査で日本は、科学的リテラシーで二位(OECD加盟国二位)、読解力で七位(同六位)、数学的リテラシーで五位(同一位)でした。一方で、「科学の楽しさ」に関連する項目への肯定的な回答は六七位(七〇か国中)、科学の勉強が将来役に立つと回答したのは六三番目でした。

学力では国際的に最上位に位置しながら、意欲はほぼ最下位という結果でした。人口が一億人を超える大国の平均的な学力が世界最高水準であることは、大いに誇るべきことです。他方、楽しいとも役に立つとも思えない勉強を受験のためにやらされている子どもたちの姿も浮かんできます。

同じ七月に、本校では学校自己評価(中間)アンケートを、生徒・教職員対象に行いました。「先生は、生徒に学問に対する興味・関心を高めるように指導している。」と回答した生徒の割合は八三%、授業は工夫されわかりやすいと答えたのは八五%でした。PISAの調査にそのまま対応する質問ではありませんが、先生方は、生徒の意欲を高めるように努めています。生徒が学習への意欲を高めながら学力を伸ばす。本校での学習が、受験の向こう側で生徒の豊かな人生につながることを願っています。

私は今回の研修旅行で、普段経験できないことをさせてもらい、三日間友達と過ごしたことで、将来自分がどうなっていたいか、これからどうしていききたいかを改めて考えることができました。

クラス別研修で一組は読売新聞と日本銀行に行かせてもらいました。私は最初、新聞はパソコンで文字を打って紙に印刷するようにすぐにできるものだと思っていました。しかし、実際はそんな簡単にできるようなものではなく、時代とともに変化しつつも人の手が多くかかわっていることを知りました。

日本銀行では、金属探知機を通ったり館内は厳粛な雰囲気だったりと緊張感がありました。私たちの周りには「証券銀行」とは違い、日本銀行には「証券銀行」「政府の銀行」「銀行の銀行」という役割があります。一年生の時に学習したことをさらに深めることができました。どちらも案内してくださった方の説明

研修旅行を通して

二二一 松岡美咲木

がとてもわかりやすく、楽しく学ぶことができました。

劇団四季の「キャッツ」は迫力がありとても感動するものでした。観客と役者の距離が近く、歌ったり踊ったりしている姿を見られて良い時間を過ごしました。もう一度見たいと思える素晴らしいミュージカルでした。

また、大学研修で私は京都教育大学に行きました。これまでに進路について考える機会は何度もあり、自分なりに真剣に考えてきましたが、実際に校内を見てお話を聞くことより具体的なイメージを持つことができました。私の中で多少漠然としていた大学進学をより身近に感じることで、大学進学への期待が高まることもにもっと勉強をしないとけないと思いました。

今回の研修旅行を通じて、私はあることをとても感じました。それは「目の前の人を笑顔にする」ということです。これは中学生の時にある先生が言われていたことですが、その大切さを改めて考えさせられました。様々なところでいろいろな職種の方々と関わり、将

来自分もこんな風に誰かの役に立ち、誰かを笑顔にできる、そんな人になりたいと思いました。そのためにこれからの自分の進路についてしっかりと考え、達成できる力をつけなければいけないと思いました。今回学んだことや考えたことを将来の進路、そして普段の生活や部活動でも生かし、今の自分にできることを精一杯やっていこうと思います。

私は今回の研修旅行でたくさんの貴重な経験をしました。様々な場所や学んだことや体験したこと、何より友達と一緒に楽しく充実した三日間を過ごせたことが、私にとっての一番の思い出です。一日目は、大阪弁護士会を訪問し、実際の裁判を傍聴しました。私が傍聴した中の一つは裁判員裁判でした。その裁判では、百万円以上のお札の入った財布を奪い、その際に押し倒したことで相手にけがをさせた被告の罪が問われていました。法廷の静かさや、検察官の被告に對しての厳しい問いかけなど、すべての事が初めての経験でしたし、自分が裁判員ならどう判断するのだろうかと思うと、その場にいるだけでとても緊張しました。その日の夜は、劇団四季の「キャッツ」を観ました。劇場内は不思議な飾りが付けがされていて、ミュージカルが始まると歌やダンス、そして劇場場すべてを使った演出に引き込ま

研修旅行を通して

学んだこと

二二二 杉本 歩未

れてしまいました。二日目は、京都教育大学で講義や学校紹介を聞きました。教育にかかわる仕事の魅力、やりがいについて深く学べた貴重な機会でした。午後の班別研修ではカップラーメン記念館でオリジナルのカップラーメン作りを体験しました。外国の方もたくさん訪れていて、日本の文化が海外にも浸透しているのだなあと改めて感じました。その後は、心斎橋などへ買い物に行き、班員全員で協力して迷うことなく目的地までたどり着き、時間いっぱい楽しむことができました。三日目のUSJでは、初めは少し雨模様で心配していたけれど、雨もやみ、友達思い切り楽しい時間を過ごしました。アトラクションにも乗り、素敵な思い出がたくさんできました。

今回の研修旅行は、自分の将来についての考えを広げる学びの機会であり、友達との仲が今まで以上に深められた三日間でもありました。この研修を通じて経験したこと、学んできたことを忘れず、これから自分の進路実現のため、また、自分自身を今よりも成長させられるように、限られた高校生活の一日一日を大切に、努力し続けられるように頑張っていきたいです。そして、自分の人生の中でも、自ら関心を持ち、学ぼうとする姿勢を大切にしていきたいと思っています。



経験

二一七 中尾 朱里

私は、研修旅行のことを考えると気が重たくなっていました。しかしそんな時に、この作文を依頼されました。作文を書くということは研修旅行にしっかりと向き合わなければなりません。だから、気持ちを変えて色んなことを吸収しようという姿勢で研修旅行に参加しました。そういうわけで、私は今回の研修旅行で様々なことを体験し、学んだり考えたりすることができました。その中でも特に印象に残っていることを書きたいと思います。

まず、班別自主研修で訪問した、京都万華鏡ミュージアムについてです。私は訪問するまで筒状の、手に持って回すとカラカラ音がする万華鏡しか知りませんでした。京都万華鏡ミュージアムにはそれではない、様々な形や大きさ、覗き方の万華鏡がたくさんあり、とても驚きました。手で回して回すのではなく、上から覗いて見るタイプのものもありました。展示室の中には従業員の方が三人ほどいて、それぞれの万華鏡について詳しく丁寧に説明してくださいました。その話し方からは、万華鏡に対する思いが伝わってくるようで心地良かったです。また、説明しているときの表情がどこか誇らしげでとても良いなと思いました。

この日は六時までにホテルに

着かなければなりませんでしたが、道に迷いながら走って走って、なんとかギリギリ間に合いました。久しぶりに走ったのでここ最近で一番疲れました。この経験から時間に余裕を持つことの大切さも実感しましたが、体力の必要性も非常に感じました。

もう一つはUSJのスタッフの方たちについてです。私たちがあるアトラクションに乗って動き出すのを待っていると、安全装置の確認のため降りてください、というアナウンスが流れ、またアトラクションの外で待つことになりました。結局また乗るまでに十五分くらいかかったのですが、その間、スタッフの方たちは待っている小さな子どもたちとちよつとした遊びをしたり、私たちにも話をしてくださったりと、退屈をしないような工夫をしてくださっていました。人気の理由はこういうところにもあるのだらうなと思いました。この時だけでなく、お土産を買うときや歩いているときにも声をかけていました。USJのスタッフにはとても高いコミュニケーション能力や様々な人に対する気遣いが必要だと分かりました。私にはそういうものが足りていないので、少しはそういったところを見習うべきだと感じます。

今回様々なことを体験し、進路のことなども学びましたが、それより、これから生活していく上で、または生きていく上で重要なことの方が多かったと私は思います。行く前は研修旅行について積極的ではありませんでしたが、終わっ

てみると行って良かったと感じます。

また、こうして作文を書くことで三日間を振り返り、自分の考えを整理できたのでこれから作文をしていきたいと思いました。



個人的ではありませんが…

前期生徒会長

三十一 中村 創一

ものすごく盛り上がったと思う。正直なところ、これを書いているのが「東高祭」からだいぶん経っているし、私は三日間ずっと馬車馬のように働いていたので、みんなとの盛り上がりあまり共有してないからか実感が少ない。でも、盛り上がったはずだ、そうだと信じたい。

自分でいうのもなんだが、私には「会長力」が皆無だ。(注・会長力とは、リーダーシップや事務処理力など会長をする為に必要な能力の総称である。)だから、「東高祭」という大きな行事を盛り上げられるのか不安しかなかった。しかし、そんな心配は杞憂だった。一人一人がやることを全力でして、一つの成功に向かって努力して、自分だけの最高の思い出を手に入れた。それは本当の意味で東高生全員でつかんだ成功だと思う。



思い出を忘れることは絶対にない。脳が忘れても心が覚えていて。私はそう思う。この素敵で最高だった三日間は、皆の心の永久保存版である。その中に生徒会長としていられることがうれしさと素直に思う。ここまで活動してこれたのもみんなのお蔭だと思う。このありがたさの気持ちを思い出の隣において、明日からの日々を生きてゆきたい。

青春の二ページ

一 二 山下 星穂

初めての東高祭。この春出逢った四十人と最高の思い出が出来ました。

本選出場、そして優勝を目指したクラス合唱とダンス。僕は合唱の責任者とダンスのリーダーとなりました。勝ちたい気持ちや焦りが前に出て口うるさく言ってしまうこともありました。合唱では惜しくも三位、ダンスは入賞出来なかったけれ

ど、とても盛り上がり大成功だったと思います。クラスの仲間からも労いの言葉をもらい、頑張ったよかったですと思いました。

一番印象に残ったのは体育祭です。初め、X人Y脚はなかなか息が合わず、よく止まっていた。しかし練習を重ねることに止まることもなく、スピードも上がっていききました。そして、本番ではみんなの気持ち一つとなり、十一秒という圧倒的速さで一位を獲得することが出来ました。その勢いで、リレーも一位。そして一年総合優勝を勝ち取りました。

東高祭を通して、二組はどのクラスよりも団結力が強くなったと思います。この団結力を活かして、学習や部活動、自分の夢に向かって進んでいきたいです。二組、最高！



皆で創る

二一五 山下 愛加

第68回東高祭

生徒会主任 邨上 克也

今年の東高祭は、雨音が鳴る中スタートしました。特に二日目はかなり雨が降っていましたが、それを压倒するような東高生の熱気が体育館にあふれていたと思います。その甲斐あって、三日目の体育祭が予定通り行われました。時間が少し短くなってしまうましたが、昨年とは異なるカラーの体育祭になったと思います。私は特に綱引きが印象に残っています。皆さんも知っているように綱引きは縦割の競技で、他学年はほぼ知らない人ですが、競技が始まると三学年が一齐に掛け声に合わせて応援し、勝負がつく瞬間まで一つとなれ、めったにないことも重なりよい思い出になりました。また、この競技で一位になることができ、さらに盛り上がりしました。

東高祭を通して、今までより仲間と楽しい時間が過ごせ、体育祭やクラス演技は、やっている人だけでなく、その場にいる全員の力や声で創ることができていると感じました。来年はまた違ったカラーの東高祭にしていきたいです。

第六十八回東高祭が九月六七・八日の三日間で開催され、無事成功裏に終わりました。

初日は梨花ホールで行われました。執行部製作のオープニング・ムービーは、これから始まる三日間を彷彿とさせました。続く書道部によるパフォーマンスは、堂々たる演技で観客を魅了し、理数科の課題研究発表ではその研究成果に感心し、有志による東北訪問発表においては、被災地支援のあり方について考えさせられました。午前中最後の外部公演では、テレビ等でも活躍中のJスコーズの美しい声とハーモニーに魅了されました。午後は邦楽・吹奏楽部演奏、演劇部公演が行われました。展示室での文化部による展示なども含め、各クラブの練習の成果が十分に発揮された素晴らしい舞台となりました。最後に行われた合唱コンクールは、予選を勝ち上がったクラスによって行われ、その歌声に惜しめない拍手が送られました。

二日目は全クラスによるクラス演技から始まりました。どのクラスも観客を楽しませようと工夫した内容で、会場は大きな歓声で大盛況となりました。午後からは模擬店・クリエーション・アトラクション・

ミュージックファクトリー・文化部による展示が行われ、生徒の個性が感じられる素晴らしい出来上がりでした。特に模擬店は、雨天で足下が悪い中にも関わらず各クラスが工夫をしており、さすが三年生と思わせる内容でした。

三日目は、体育祭が第一グラウンドで開催されました。前日の雨でグランド状態が悪く開催が危ぶまれましたが、執行部の呼びかけに朝早くから多くの生徒が集まり、泥だらけになりながらも水抜き作業を行ってくれました。その結果、何とか一時間遅れで開会することが出来ました。生徒たちの熱い情熱と団結力が体育祭の全プログラムを実施させたと思います。その後の夕べの集いは実行委員による司会進行のもと、フォークダンス等が行われました。生き生きとした表情で踊る姿は、終わってしまうのが名残惜しいほどでした。そしてフィナーレで生徒会長挨拶のあと全員で風船を飛ばし、東高生たちの汗と熱い思いがぎゅっ詰まった東高祭は成功の終演となりました。

各クラスの合唱コンクール・クラス演技やハチマキ・ゼッケン・クラス旗製作、また、各部による演技・発表・展示など、苦勞した準備があつてこそ素晴らしい成果が生まれたと思います。特に、二十年ぶりに復

活したシンボル製作は、初めての東高祭を迎える一年生が、竹の採取から切断、設計・製作と試行錯誤を繰り返しながら期日までに作り上げることが出来ました。苦勞を重ねた分、出来上がった時の達成感や充実感は大きなものだったと思います。それぞれが創意工夫を凝らし、仲間と協力しながら、時には衝突しながら、より良いものを作り上げようとする姿は、初めて東高祭を経験する私にとって、大きな感動を与えてくれました。



各種大会等結果

ボート部

●第72回国民体育大会 ボート競技の部(10/6~9)

●少年男子ダブルスカル鳥取県選抜 小山(3-16) 準優勝

●第72回国民体育大会中国ブロック大会 ボート競技の部(7/15~16)

●少年男子舵手付クワドルブル鳥取県選抜 (小西、福田、徳田)

第4位

●少年男子ダブルスカル鳥取県選抜 小山(3-16) 第2位

●国体出場権獲得

●少年女子舵手付クワドルブル鳥取県選抜(三谷) 第1位

●国体出場権獲得

●第29回全国選抜ボート大会鳥取県予選会兼鳥取県新人戦

(10/28~10/29)

●男子舵手付クワドルブル(小西、徳田、安井、田中、中溝) 第1位

●男子ダブルスカル(南條、國本) 第1位

●女子舵手付クワドルブル(朝倉、小林、中谷明、中谷美、小出) 第1位

●第29回全国選抜ボート大会中国地区予選会(10/28~10/29)

●男子ダブルスカル(南條、國本) 第1位 全国選抜へ

●女子舵手付クワドルブル(朝倉、小林、中谷明、中谷美、小出)

第1位 全国選抜へ

放送部

●第64回NHK杯全国高校放送コンテスト(7/24~7/26)

●テレビドキュメント部門「今こそ地元民」 準々決勝敗退

●ラジオドキュメント部門「見直そう！生活習慣」 準々決勝敗退

●ラジオドラマ部門「始まりの演劇部(シアトリカル)」

準々決勝敗退

個人

●朗読部門 北本 琉奈(3-13) 準々決勝敗退

●第41回全国高等学校総合文化祭宮城県大会 放送部門(8/3)

個人

●朗読部門 北本 琉奈(3-13)

●優秀賞(ブロック1位、全国8位以上)

●平成29年度鳥取県高等学校総合文化祭

放送部門・朗読部門 垣屋 真歩(2-2)

●平成30年度全国高等学校総合文化祭長野県大会出場権獲得

●第37回近畿高等学校総合文化祭大阪大会 放送文化部門(11/19)

個人

●朗読部門 垣屋 真歩(2-2) 出場

団体

●ビデオメッセージ部門出場

水泳部

●平成29年度全国高等学校総合体育大会・日本高等学校選手権水泳競技大会

団体

●男子400mメドレーリレー

予選落ち記録(4:00.00 県新記録)

日笠鉄平(3-16)、本田航平(1-17)、大崎海翔(1-15)、

山本 真(2-15)

個人

●男子100m背泳ぎ 日笠 鉄平(3-16) 予選落ち

●男子100m自由形 本田 航平(1-17) 11位

●男子200m平泳ぎ 本田 航平(1-17) 9位

●第72回国民体育大会(9/15~9/16)

●男子100m平泳ぎ 本田 航平(1-17) 4位

●男子200m個人メドレー 本田 航平(1-17) 5位

●第65回中国高等学校選手権水泳競技大会(7/21~7/24)

団体

●男子400mメドレーリレー 3位 インターハイ出場(30年ぶり)

日笠鉄平(3-16)、本田航平(1-17)、大崎海翔(1-15)、

山本 真(2-15)

●男子800mフリーリレー 5位

山本 真(2-15)、猪山裕之(2-14)、本田航平(1-17)、

田中隼斗(3-16)

個人

●男子100m背泳ぎ 日笠 鉄平(3-16) 3位

●男子200m背泳ぎ 日笠 鉄平(3-16) 5位

●男子1500m自由形 山本 真(2-15) 8位

●男子100m自由形 本田 航平(1-17) 1位

●インターハイ出場

●男子200m平泳ぎ 本田 航平(1-17) 2位

●第72回国民体育大会鳥取県予選水泳競技の部(7/9)

●男子500m背泳ぎ 日笠 鉄平(3-16) 1位

●男子200m背泳ぎ 日笠 鉄平(3-16) 1位

●男子400m個人メドレー 安藤 弘樹(2-11) 1位

●男子500m背泳ぎ 安藤 弘樹(2-11) 3位

●男子400m自由形 猪山 裕之(2-14) 3位

●男子400m自由形 山本 真(2-15) 1位

●男子100m背泳ぎ 難波 将大(1-12) 3位

●男子100mバタフライ 大崎 海翔(1-15) 1位

●男子200m個人メドレー 本田 航平(1-17) 1位

●国体派遣選手メンバーに選出

●女子500mバタフライ 瀧山 美紗(3-13) 1位

●女子200m平泳ぎ 徳田 響(2-11) 2位

●女子200m平泳ぎ 吉尾 真歩(2-12) 1位

●女子500m背泳ぎ 久本 美空(2-13) 2位

団体

●女子100m背泳ぎ 内田 英里(1-15) 2位

●女子500m平泳ぎ 小西 乃愛(1-11) 2位

●平成29年度鳥取県高等学校新人水泳競技大会水泳競技の部

団体

●男子総合 準優勝

●男子400mメドレーリレー 2位

●男子400mフリーリレー 2位

●男子800mフリーリレー 2位

●女子総合 優勝

●女子400mメドレーリレー 2位

●女子400mフリーリレー 2位

●男子2000m個人メドレー 安藤 弘樹(2-11) 1位

●男子4000m個人メドレー 安藤 弘樹(2-11) 1位

●男子4000m個人メドレー 猪山 裕之(2-14) 5位

●男子4000m個人メドレー 猪山 裕之(2-14) 2位

●男子4000m個人メドレー 山本 真(2-15) 1位

●男子1500m自由形 山本 真(2-15) 1位

●男子2000m自由形 星合 隼宏(2-16) 6位

●男子4000m個人メドレー 山本 真(2-15) 6位

●男子1000mバタフライ 大崎 海翔(1-15) 4位

●男子2000mバタフライ 大崎 海翔(1-15) 3位

●男子1000m平泳ぎ 本田 航平(1-17) 1位

●男子2000m平泳ぎ 本田 航平(1-17) 1位

●女子500m自由形 岸田 美伶(2-11) 2位

●女子1000m自由形 岸田 美伶(2-11) 2位

●女子1000m平泳ぎ 徳田 響(2-11) 6位

●女子2000m平泳ぎ 徳田 響(2-11) 6位

●女子1000m平泳ぎ 吉尾 真歩(2-12) 2位

●女子2000m平泳ぎ 吉尾 真歩(2-12) 3位

●女子1000m自由形 久本 美空(2-13) 5位

●女子2000m自由形 久本 美空(2-13) 2位

●女子1000m平泳ぎ 小西 乃愛(1-11) 3位

●女子2000m平泳ぎ 小西 乃愛(1-11) 4位

●女子2000m背泳ぎ 内田 英里(1-15) 5位

●女子2000m個人メドレー 内田 英里(1-15) 4位

●女子2000m個人メドレー 岸本 麻央(1-15) 2位

●女子4000m個人メドレー 岸本 麻央(1-15) 1位

●第5回中国高等学校新人水泳競技選手権大会(10/21~22)

団体

●男子総合 5位

●男子4000mフリーリレー 5位 本田航平(1-17)、山本 真(2-15)、安藤弘樹(2-11)、



水泳部

・猪山裕之(2-4)	5位	・猪山裕之(2-4)	5位
・男子800mフリーリレー	5位	・山本 真(2-5)、安藤弘樹(2-1)、猪山裕之(2-4)、本田航平(1-7)	8位
・男子400mメドレーリレー	8位	・猪山裕之(2-4)、本田航平(1-7)、大崎海翔(1-5)、山本 真(2-5)	
個人		個人	
・男子400m自由形	山本 真(2-5)	4位	
・男子1500m自由形	山本 真(2-5)	5位	
・男子100m平泳ぎ	本田 航平(1-7)	1位	
・男子200m平泳ぎ	本田 航平(1-7)	3位	
・女子500m自由形	岸田 美伶(2-1)	8位	
《陸上部》			
・第52回鳥取県高等学校総合体育大会駅伝競走(11/4-5)			
・男子(北脇・並河・川上・三浦・山田健・吉村・谷掛)	北脇 秀人(2-2)	4位	
・男子1区 区間賞	北脇 秀人(2-2)	4位	
・女子(西尾・浅田・松田・國森・前田)		4位	
・第60回鳥取県高校新人陸上競技大会(9/15-16)			
団体			
・男子総合 4位			
・男子4×100mR(吉多、増田、橋本、青木)		5位	
・男子4×400mR(吉多、青木、橋本、並河)		5位	
個人			
・男子5000m	北脇 秀人(2-2)	1位	
・男子1500m	北脇 秀人(2-2)	2位	
・男子3000m障害	谷掛 善貴(2-4)	2位	
・男子内盤投	赤熊 佑斗(2-5)	2位	
・男子砲丸投げ	赤熊 佑斗(2-5)	3位	
・男子1500m	三浦 智紘(2-2)	4位	
・男子5000m	三浦 智紘(2-2)	4位	
・男子3000m障害	中家 秀斗(2-7)	4位	
・男子800m	米岡 駿裕(2-3)	6位	
・女子800m	浅田 海生(1-3)	3位	
・女子3000m	西尾 香乃(1-3)	6位	
・第26回中国高等学校新人陸上競技対抗選手権大会			
・男子5000m	北脇 秀人(2-2)	2位	
・男子1500m	北脇 秀人(2-2)	8位	
《女子バスケットボール部》			
・第84回皇后杯全日本バスケットボール選手権大会			
第1次ラウンド(県代表決定トーナメント)(8/26-27)			
・3位			
・第72回国民体育大会中国ブロック大会			
バスケットボール競技(8/18-20)			

・5位	岸田 瑞希(3-6)、河原 光(3-3)、辻 華音(3-2)、西尾 佳奈(3-6)	
《女子サッカー部》		
・第26回全日本高等学校女子サッカー選手権大会鳥取県予選会		
・優勝		
・第52回鳥取県高校サッカー新人戦		
・優勝		
・出場		
《テニス部》		
・平成29年度鳥取県高等学校テニス新人戦東中部地区予選大会		
・男子シングルス 植村 健希(2-6)	3位	
・男子シングルス 小見山侃大(2-5)	5位	
・男子シングルス 西垣 陸(2-2)	6位	
・男子ダブルス 浦木勇輔(2-5)、橋川蒼生(1-6)	優勝	
・男子ダブルス 小見山侃大(2-5)、西垣陸(2-2)	4位	
・女子シングルス 網川なつみ(2-3)	7位	
・女子シングルス 宮島 依吹(2-6)	10位	
・女子ダブルス 岩井彩香(1-2)、戸田菜々香(1-2)	4位	
・平成29年度鳥取県高等学校テニス新人戦 個人の部		
・男子シングルス 橋川 蒼生(1-6)	3位	
・男子シングルス 田中 宏和(2-2)	ベスト8	
・男子シングルス 松本 龍我(2-7)	ベスト8	
・男子シングルス 植村 健希(2-6)	ベスト16	
・男子ダブルス 田中宏和(2-2)、松本龍我(2-7)	優勝	
・男子ダブルス 浦木勇輔(2-5)、橋川蒼生(1-6)	3位	
・女子シングルス 網川なつみ(2-3)	ベスト16	
《ソフトテニス部》		
・第53回鳥取県高等学校ソフトテニス新人戦		
・男子団体 2位		
・男子個人 大谷 健悟(2-2)	3位	
・男子個人 関木 隆光(2-2)	3位	
・男子個人 垣田 郁也(2-5)	5位	
・男子個人 松田 零士(2-2)	5位	
・女子個人 森本 陽風(2-3)	9位	
・女子個人 中田 汐音(1-5)	9位	
・女子個人 義仲布多葉(1-7)	9位	
・女子個人 玉木 理菜(2-4)	9位	
・女子個人 田中 未来(2-5)	9位	
・女子個人 藤原 愛由(2-2)	9位	
《卓球部》		
・鳥取県民スポーツレクリエーション祭(10/22)		
・男子団体 男子A3位		
・女子団体 2位		

鳥取県高等学校卓球新人戦(11/11~12)			
女子シングルス	榎 琴音(1-6)	2位	準優勝
女子ダブルス			
榎 琴音(1-6)・濱垣明日香(2-2)	2位		
《バドミントン部》			
鳥取県高校新人戦バドミントン大会 東部地区予選			
男子ダブルス			
伊佐田 剛(2-5)・田中 雅陽(2-7)	ベスト4		
男子ダブルス			
岡村 拓実(2-6)・小松 豪太(2-5)	ベスト16		
男子シングルス	伊佐田 剛(2-5)	ベスト16	
男子シングルス	田中 雅陽(2-7)	ベスト16	
女子ダブルス			
井本 珠実(1-6)・山口 紗季(1-2)	ベスト16		
女子シングルス	井本 珠実(1-6)	ベスト16	
《弓道部》			
平成29年度鳥取県市秋季弓道大会			
男子個人	馬淵 雄羽(1-6)	4位	
《柔道部》			
平成29年度鳥取県高等学校柔道新人戦(10/21~22)			
男子団体	優勝 中国大会出場		
男子60kg級	原田 康生(2-6)	2位	
男子73kg級	中砂 友希(2-6)	優勝	
男子73kg級	岡本 康佑(1-7)	ベスト8	
男子81kg級	小林 岳(1-4)	2位	
男子81kg級	芦川 丈治(2-1)	3位	
男子90kg級	塩谷 文(1-3)	優勝	
男子100kg級	南部 耕祐(1-6)	3位	
女子団体	中国大会出場		
女子70kg級	河野 志織(2-6)	2位	
女子78kg級	網谷有里子(2-1)	2位	
《演劇部》			
平成29年度鳥取県高等学校総合文化祭			
第45回演劇発表会			
優秀賞			
《書道部》			
第19回席上揮毫大会			
石原 祥子(2-1)	最優秀賞		
西尾かの子(1-2)	佳作		
第3回イオンモールカップ			
書道パフォーマンススグランプリ鳥取県予選(10/14)			
優勝			



書道部



演劇部



柔道部

保護者様からのメッセージ

野球部

『感謝の気持ちを忘れない』

東高に入学が決まり、部活を決める時「やっぱり野球がしたい」と言い出した息子。こんな小さな体で硬式野球ができるのか？体力は？筋力？と不安で一杯の親をよそに、人生初の丸坊主の我が子を見て応援するしかありませんでした。そんな息子が2年生からベンチ入りし、やがてキャプテンとなり、チームを引っ張っていく立場となりました。主将としてのプレッシャーの中、怪我との戦いは気持ちとの戦いでもあった事でしょう。しかし、くさることなく頑張れたのは、先生やチームメイトの支えがあったからこそと感謝・感謝の気持ちでいっぱいです。お蔭で、野球生活が満足のいく達成感で終える事ができました。白球を追いかけた11年間、あの泥まみれのユニフォーム姿が今は懐かしいです。息子をここまで育ててくださった皆様、本当にありがとうございました。（野球部保護者 稲村 千明）



華道部

入学してからあつという間の3年間、部員が少なくても楽しく活動できたのは、花が好きなこと、いろんな場面で生けた花を人に見ていただいたこと、でも一番は素敵な先輩や仲間に出会えたことだと思います。ありがとうございました。（華道部員の母）



英語部

東高に入学後、英語部に入部し、あつという間に3年生、2年間部長を務め、苦労もあったと思いますが、よい経験をさせていただきました。たくさんの後輩もでき、よい仲間、顧問の先生にも恵まれ、充実した3年間だったと思います。ありがとうございました。（英語部員の母より）



吹奏楽部

毎日部活動に励む姿を見て、この頑張りが素晴らしい演奏を生んでいるのだと感じています。練習は辛いときもあると思いますが、皆さんの頑張りはずっと将来の糧になると思います。コンクールに続き、東高祭や定期演奏会など、まだまだ活躍の場がありますので、悔いのないように音楽に打ち込んでください。（保護者会長 二井内 義隆）



書道部

中学生の時、初めて東高の書道パフォーマンスを見て「東高で書道する!!」という想いを持って東高書道部へ。同学年がいなくて大変なこともあったかと思うけど、先生・先輩方に恵まれ温かく見守っていただき、後輩に支えてもらい乗り越えられた3年間だと思います。全国大会での貴重な経験を活かし、今まで出会ったすべての方々への感謝の気持ちを忘れず、夢に向かって羽ばたいてください。（保護者 森木）

（保護者 森木）



部落解放研究部

40年前、私は東高の解放研で「生き方」を学んだ。そして、今も学んでいる。異質な他者を通して自己を知る。歩けないことから、歩けることを学び直す。見えないことから、見えることを 聞こえないことから、聞こえることを学ぶ。東高の解放研はマイノリティーから、自己を問う部活であり、そこに『東高スピリッツ』が流れていると思う。

大先輩、糸賀一雄も「この子らを世の光に」と教えてくれた。この学びを東高解放研が、我が子が受け継いでほしいと願っています。

（山脈33回 福田 和博）

生徒会執行部



保護者様からのメッセージ



美術部

優秀だった3年生が卒業し、ちょっと心細い美術部。がらにもなく1年生から部長になってしまった娘。2年生になった今も自分に務まるのかと不安な日々を過ごしています。でも仲間に支えられ、先生と部員の間に立ち、自分の絵にも懸命に取り組む。これは今しかできない経験です。皆が良い作品を作れるよう応援しています。

(保護者)



文芸部

小さなときから大好きだった文章作り、高校では当然のように文芸部でした。パソコンに向かって楽しそうに文字を打ち込んでゆく姿を見ました。文化祭では発行されるまでに完成できるのかと、のんびりな姿勢は変化なしでしたが、マイペースな貴方にぴったりの部活動でしたね。ご苦労様?でした。

(保護者より)

咲夜姫
陸月

蒸気龍の夢
上
めかじき

『口
癖色

Y=33
トランジスタ



保護者のための進路セミナー

研修部長 吉澤 春樹

九月二十三日(土)に第二回保護者のための進路セミナーを一年保護者対象に開催しました。六月に開催した第一回と同様、百名以上の参加がありました。

と云われたことは、講演が終わって早速聞いてみると、学校で説明を受けているから分かっている様子でほっとしました。

保護者も学び、子どもに寄り添えるPTA研修部の活動ができればと考えています。

高校受験も終わりちよつと一息と思っていたら、文理選択という子どもたちの将来の岐路に立っているのだと再確認しました。

資料では分かりにくい重要なことを実体験を交えながら解説されました。「子どもさんに確認してみてください」



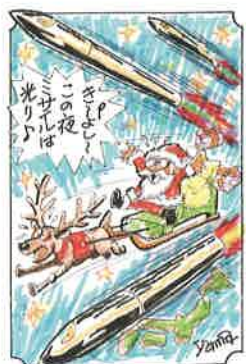
鳥取大学訪問

研修副部長 吉村 雅子



十月八日(日)、PTA研修部主催で身近な国立大学である鳥取大学を訪問しました。施設見学を通して広い視野で進路、将来を見据えるため親子で学ぶことを目的として呼びかけ、約一〇〇人(保護者・生徒)の参加がありました。

はじめに、鳥取大学の概要特徴恵まれた教育環境と自然環境・豊富な理系分野・グローバル人材育成の強化、学部・学科紹介、大学卒業後の進路など、国立大学の魅力を分かり易く説明いただきました。



山脈十二回生 山崎 勝彦

自習室が1年365日使えます

本気で頑張る人へ

～利用マナー～ お互い気持ちよく使いましょう!

- 1 鳥取東高校在校生のみ利用可能
- 2 自習目的でのみ利用可能
- 3 退出の際、窓閉め、消灯とエアコンのスイッチはOFFに(最後に出る人は、玄関ドアが閉まったことの確認を!!)
- 4 17:00以降と、土日利用の際は保護者に必ず連絡を(安心・安全のためです。自分の居場所を知らせておこう)
- 5 ほかの利用者に迷惑がかからないよう良識ある行動を
- 6 禁止事項は右の通り: 迷惑行為・マナー違反者は次から利用不可
- 7 その他 17:00以降と土日は原則2階の図書館は利用できません
図書館前から教室棟への立ち入りはできません



月曜日～金曜日
7:00～19:00
土・日・祝祭日
7:00～18:00



新しい世界観(目次交流)

一 伊藤 陽信

私は今年の秋、初めてホストファミリーとなった。その時の出会いにより物の見方が変わったのだと思う。それは、自分にとってとても良い経験となった。

私達人間の仲を隔てている大きな壁の一つが国境であると思う。しかし、その様な考えは一緒に過ごした数日の間にきれいに消え去っていた。今振り返ると、初め会った時は緊張していても話せていなかったと思う。しかし二日目になると打ち解けていき、まるで学校の友人達と話しているかのような気分になっていた。その時にきつと国が違っても、人としての本質は異なったりしないのだと深く自分の中に刻み込まれた。また、その時に、ニュースなどで報道される中国への批判は事実に間違いはないが、それは一部であり、実際の大部分の人には当てはまらないという事も身をもって知ることができた。

私は、グローバル化の進みつつあるこの世界の中で国と国との違いを障害としてではなく、だめだと思ふ。やはり人間はどこに住んでいても、どんな言葉で話しても同じ人間であり、互いに認め合って共にこれからの世界を作っていくべきだと思う。ホストファミリーとなり学んだたくさんことは、きっとこれから生きていく中で大きな意味を成していくと思う。自分を成長させるためにも、何事にもチャレンジし、その時に新しく学んだことをこれから歩む人生に生かしていきたい。

いつも心に「感謝」を

一年保護者 影山 嗣隆

入学して早や半年が過ぎ、すっかり学校にも慣れてきたように感じます。昨年までとは違い、自らの考えのもと勉強やクラブ活動に取り組んでいる姿は、大きな成長すら感じるところでもあります。

しかし若いとはいえ、ここに至るまでも多くの困難が有ったことでしょ。例えば、いくら努力しても思うような成績が取れず落ち込んだり、ケガをして運動会などクラスの友達に迷惑をかけ心苦しい日々が続いたり。その度に自ら立ち上がり乗り越えようとしている姿は、頼もしくも思えます。過去二回にもわたるボイスカウトの日本及び世界大会では、二週間の灼熱の厳しい野営生活で粘り強い諦めない精神を養うことができた、今の支えになっているのでは、とも思います。積み重ねてきた小さな努力があるからこそ、今の自分がある。友達を大切にしてきたからこそ、多くの友がいてくれる。孤立している人がいれば、声をかけ手を差し出すことで、人からやさしくされる。決して見返りを求めたのではなく、自らの物事の判断、良し悪しを考へ行動してきた結果だと思ふ。どんなことも、いつか必ず自分に返ってくるものだと、私は思うのです。

また、その心には「感謝」という気持ちがあるのだと思います。「声をかけてくれてありがとう、いつもそばにいてくれてありがとう、笑わせてくれてありがとう」など、周りに支えられているからこそ、今を生きていられるのだということ。そのことに有り難く感謝する人間になってもらいたいと思ふます。その心をもつて、将来、人のために何が自分のできるのか、その自分には何が足りないのか、どうやって解決していくのか、自己満足には限界があり、人の役に立つことには限界がありません。自分を磨き、世の中の役に立つ人間になれるよう、人生の目的を明確に持ち、強い気持ちで邁進してもら

いたいと思っています。がんばれば、くじけてもいいから。責めないから。

仲間

二一六 植村 健希

高校生活も、気が付けば一年半が過ぎていた。振り返ると、多くのことを経験し、とても充実した時間を過ごしてきたと思う。その中で、僕を支えてくれる多くの仲間と出会えた。様々な学校行事を通して仲間との関係はさらに深いものになった。

皆さんは「仲間」という言葉をどのようにとらえているだろうか。僕は同じ目的や目標の為に支え合い、協力し合える関係」と考えている。特に部活動は、この考えを大きく反映していると思う。部員一人一人が互いに切磋琢磨し、共通の目標に向かって進んでいく。目標達成した時には、仲間と一緒に喜び合うことができ、ダメだった時には慰め合うこともできる。

もちろん、僕が所属するテニス部も、目標を達成させる為に部員同士競い合い、励まし合い、支え合っている。目標達成できるよう、これから仲間と一緒に努力を忘れず、自分のすべきことをやっていきたいと思います。

この文章を書いている時に、ふと「受験は団体戦」という言葉を思い出した。ほとんどの人が進学・就職という次のステップの目標を持っていると思う。目標とする道は違えども、達成させる為に何をすべきなのか、仲間との生活を通して見つけ出し、受験、そして卒業までの日々を過ごしていきたい。

有意義な高校生活を

二年保護者 山本 陽子

娘は、東高に入って吹奏楽がしたい、と希望し、憧れの東高に入学してはや二年生も後半となりました。

入学式の時、私は吹奏楽部の方が演奏される近くに座り、中学生とはまた違う高校生らしい力強く素敵な演奏を聴かせていただき、娘もこの方々の一員となつていろいろな経験をしていく

のだと思うと、嬉しくてつい涙が溢れてきたのを思い出します。学習と部活動の両立は難しいようで、家に帰るとぐったりと疲れており眠ってしまうことも多いですが、この一年半、辛い事があってもやり抜こうとする姿、又、部員としてクラスの一人としての役割を行う中で、責任をかけてでも自分が納得できるよう、責任をもって丁寧に物事に取り組み姿を見て、今後社会に出て生きていくためにとても大切なことを学び、自分の力にしている様子が成長を感じました。

そして、部活動を通して、先生方、先輩、後輩、同級生の仲間に出会い、一緒に泣いたり笑ったりしながら様々な経験をさせていただいていること、話を聞いたり、姿を見ながらとても嬉しく思っています。高校生活もあと半分、友達や仲間を大切に、精一杯楽しみ、そして目標に向かって一日一日を丁寧に過ごしてほしいと思います。私も娘との日々を大切に、応援していきたいと思っています。

東高での三年間

三一一 藪田 芽生

今までの高校生活を振り返ってみると、大変なこともあったけど、楽しいことや嬉しいこともたくさんあった。充実した高校生活だったなあと感じます。

勉強面では、毎日の課題などが大変で途中で逃げ出したくなるときもありました。しかし、努力した分は無駄にはならないし、自分の将来の夢や目標に少しでも近づけるためだと考えたら頑張ることができました。

東高祭では、最高の思い出を作ることができました。特に今年の東高祭は最後ということもあって、クラスで団結して取り組みました。その結果、合唱では一位は取れなかったけど、今までになく楽しい合唱をすることができました。

私はこの三年間で、コツコツと努力することの大切さを知りました。勉強でも部活動でも、そのときは実感がな

いかもしれないけど、あとになって後悔するよりは、コツコツと積み重ねていったほうが自分のためになるということを感じました。

そして、一番感じたことは友達との存在の大きさです。自分がつらいときは支えてくれるし、逆に支えてあげることもできます。私は今まで友達にたくさん迷惑をかけたと思うけど、今の私があるのは友達のおかげです。だから、これからも友達を大切にしていきたいし、このような友達に出逢えたことも高校生活の良い思い出となり、東高に入ってよかったなと思いました。

エール

三年保護者 佐々木信子

「どうせ年をとったら全部忘れるのに、なんで勉強せんといけんんだ？」小学生の時、宿題の多さにめげって娘が言っていた言葉です。確かにそうかもしれないけど、したいことだけする、無駄なことや嫌なことはしないなら犬や猫といった動物と同じです。努力は人間だけがすること。娘よ、今も思いは同じですか？

希望の東高に入学して二年半が過ぎ、楽しかった東高祭も終わって残すイベントは大学受験と卒業式のみとなりました。中三の時、将来の夢は高校に入ってから考えようと言っていた娘。具体的な目標は決まらなくても進みたい方向性は見えてきたのでしょうか。少なくとも勉強したいことは見えてきたようです。私たちはアドバイスをして支えることはできますが、決めるのはあなたたち自身です。先生や先輩たちの意見も聞きながら、自分自身で答えを見つけてほしいと思います。他校の同級生たちが次々に進路や就職先を決めていく中で焦る気持ちは分かります。でもでも、やっぱり言いたい！焦るな、惑わされるな、流されるな！楽をしてはダメだ！しっかりと自分を見つめて、信じよう？そして、負けるな、自分？